

市議会議員あいざき佐和子の活動ニュース vol.39 ITAMI大好き! 2013年11月

市立伊丹病院、分娩が休止に!

■市立伊丹病院で分娩できなくなる!

大変残念なニュースが入っています。

市立伊丹病院で、産婦人科の分娩がH26年4月から休止する可能性が高くなりました。市民病院で出産が出来なくなるということです。

■原因は産婦人科医の減少

現在、市立伊丹病院には6名の産婦人科医がいらっしゃいます。

この先生方で、産科・婦人科をご担当いただいています。

しかしH26年3月に、少なくとも1名が退職される予定で、

365日24時間体制である分娩を担うのは大変厳しくなるとのこと。

無理をして分娩を続行すると、安全性が低下しリスクが高くなります。



■新しい先生の招致は難しい

では“新しい産婦人科の先生にお越しただけでよいではないか”というのですが、これも難しい。

まず、全国的に産婦人科医が不足しています。ハードかつリスクが高く、**市立伊丹病院(伊丹市HPより)**医療訴訟になることもある産婦人科医は、なり手が少ないそう。

市立伊丹病院は大阪大学医学部から先生にお越しただいており、市長や病院事業管理者が直接大学に「なんとか産婦人科医を伊丹に」と交渉したのですが、大学側も産婦人科医がとにかく不足しており難しいとのこと。

■市内の分娩可能病院は2ヶ所に

もし市立伊丹病院で分娩休止になれば、市内で出産ができる病院は2ヶ所(近畿中央病院・みずほレディースクリニック)のみになります。絶対数として少なく、「伊丹で出産したい」と望む方のご希望に添えないケースも生じるでしょう。また個人的な話ですが、私も市民病院で子どもを出産しており、分娩休止になるのは大変ショックで残念です。

■まずは分娩予約者さんのフォロー

もちろん分娩休止の回避に向けて動くわけですが、最も気になるのは4月以降の分娩予約をされていた方がおられたこと。せっかく市民病院での出産を希望され予約をしてくださっていたわけですから、精神的な面を含め、諸事多大なご迷惑をおかけすることになります。この方々については、誠心誠意対応させていただかねばなりません。

■助産師さんのフォローも

また、市立伊丹病院の産婦人科は、医師もさることながら、助産師さんが大変充実しています。助産師外来や院内助産などを実施していたこともあり、優秀な助産師さんが大勢いらっしゃいます。助産師さんの対応も重要で

■集約した場を伊丹に!

今後ですが、“集約”というカタチになる可能性もあるとみています。現在、市立宝塚病院でも分娩は休止中ですが、それらを含め、広域で産婦人科医を集約させ、安全性の高い分娩の場を再設定する方向ではないかと、個人的にみています。

ならば、その“集約した分娩の場”を、なんとか伊丹に持ってきてもらいたい。今後は、もちろん分娩休止の回避に向け尽力するわけですが、集約となった場合は伊丹への誘致ということも働きかけていきたいと思っています。

■産婦人科医の増加策を!

こうした問題は、マクロ的に考えれば、全国的に産婦人科医が不足していることが大きな要因です。産婦人科医の報酬増加や補償充実などが挙げられていますが、いずれにせよ国において抜本的な解決に乗り出さねばならない時期にきているのではないのでしょうか。

安全に安心に出産できる場が充実することを願ってやみません。

※市立伊丹病院は、4月以降も産婦人科は残ります。分娩のみ休止であり、他はご利用いただけますのでご安心ください。